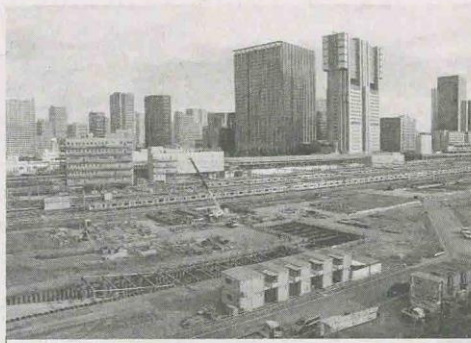


JR東が想定

東日本旅客鉄道（JR東日本）が山手線の品川―田町駅間に設置する新駅について、1日13万人の乗車人数を見込んでいることが分かった。新駅周辺では13万平方メートルの再開発を進めており、恵比寿駅や五反田駅と同規模の人の流れを創り出す。駅周辺の再開発エリアは2024年の街開きまでに約6割を開発する方針だ。

山手線の新駅 乗車客1日13万人

恵比寿・五反田と同規模



品川―田町駅間の13万平方メートルを再開発する

富田哲郎社長が日本経済新聞社の取材に対して明かした。同駅は自治体の求めに応じて設置する

富田哲郎社長が日本経済新聞社の取材に対して明かした。同駅は自治体の求めに応じて設置する

周辺開発、24年までに6割

目とみられる。富田社長は「品川再開発は自社で街づくりの方向性を決めて進める戦略的なプロジェクトになる」と話した。

新駅周辺の再開発では約5000億円を投じて7棟の複合ビルを建設する。合計の延べ床面積は100万平方メートル程度で、住宅やオフィス、商業ビル、文化施設などで構成する。24年の街開きまでに6割を開発し、残りの4割は30年代の完成をめざす。

20年に暫定開業する新駅は延べ床面積を7600平方メートルとし、1日13万人程度の乗車人数に対応する。2面あるホームに5000平方メートルに立地する。各2基のエレベーター、各4基のエスカレーターを設置して、朝夕のラッシュ時に利用者が滞留しないように工夫する。一方、近隣の品川駅は27年に開業するリニア中央新幹線の発着駅になるほか、京浜急行電鉄が羽田空港へのアクセス線を運行している。同駅周辺

京急は品川駅前の2万5000平方メートルに立地する複合ビル「シナガワグ」を3倍に拡大し、ホテルやオフィス、会議場、住宅で構成する。西武ホールディングスは品川プリンスホテルなどが立地する品川・高輪エリアの13万平方メートルの再開発を構想している。